

全社一斉防災訓練を実施

円滑な初動対応実践

ACKグループ

ACKグループは8月29日、グループ各社の全拠点において、最大規模の地震を想定した全従業員参加(1800人規模)による「全社一斉防災訓

練」を実施した。現地災害対策本部「写真」を立上げ、既往の「事業継続計画(BCP)」に加え、初動対応の手順を詳細に定めた「BCP初動対応



編」に沿って、「円滑な初動対応の実践」をテーマに訓練を実施した。

同グループでは、社会インフラ整備に携わる企業として、地域の災害復旧にいち早く貢献することを目的として、毎年「防災の日」の前後に、確実な事業継続に資する全社一斉防災訓練を実施している。

今回の全社一斉防災訓練では、同グループの全

国約30拠点に現地災害対策本部を立上げ、従業員の安否確認、初動対応における役割分担の明確化、事業復帰時期の判断、従業員の帰宅可否の判断、帰宅困難者への備蓄品の配布など、初動対応の一連の流れについて訓練した。

野崎秀則社長は、災害対策本部会議で、「今回の訓練では、従業員の安否確認、初動対応における役割分担の明確化および従業員の帰宅可否の判断などで一定の成果が得られた。今後は、今回の防災訓練の結果を元に幅広く課題を洗い出し、BCPを充実する必要がある」と述べた。